



【プレス・リリース】

ドイツ銀行グループ、日本最大の LBO 資金調達を手がける

【2001年3月30日、東京】 ドイツ銀行グループは、株式会社ジャフコによる株式会社ヴィクトリアの営業譲渡取引において、レバレッジド・バイアウト（LBO）を使った資金調達の仲介を行い、本案件が成功裡に完了した旨を発表しました。今回の案件は、譲渡価額（支払総額）が275億円にのぼる日本における最大規模のLBOで、株式会社ジャフコによる出資をはじめ、担保付クレジット・ファシリティの設定、ハイイールド債の発行、および自社保有店舗のセール・リースバック取引から構成されています。

担保付クレジット・ファシリティはドイツ銀行東京支店が主幹事、新生銀行が副幹事を務め、住友信託銀行が加わった3行により設定されました。一方、ハイイールド債についてはドイツ証券会社東京支店が単独主幹事を務めています。さらに本案件では、株式会社ヴィクトリアおよびその他保有者が保有する12の店舗を第三者に売却し、新会社が長期賃借契約を結ぶ「セール・リースバック方式」による資金調達も組み込まれています。

今回のスキームは、日本で過去最大規模のLBOであるだけでなく、小売業における担保付クレジット・ファシリティとしては日本初の案件であり、さらにハイイールド債の発行においても日本で2番目の案件となりました。なお、昨年9月に日本で初めて発行されたハイイールド債においてもドイツ証券が単独主幹事を務めました。

ドイツ証券会社東京支店のマネージング・ディレクター兼投資銀行部門の統括責任者であるゲーリー・タラリコは、「日本を代表するベンチャー投資企業であるジャフコと協力し、今回のLBOファイナンスを成功裡に完了することができました。欧米では一般的になっている買収先企業の資産を活用したレバレッジド・ファイナンスによる資金調達を組成したことは、今後、日本のM&A市場が拡大するうえで注目に値すると考えています。今回の案件は、企業買収にあたって銀行借入以外の道を日本企業に開き、資金調達の選択の幅を広げた意味で画期的な案件だと言えるでしょう。当社は日本においても資金調達の一手段としてレバレッジド・ファイナンスを浸透させ、日本企業の資金調達を支援していきたいと考えています」と述べました。

一方、ドイツ銀行東京支店のマネージング・ディレクター、クリストファー・マックは「今回の資金調達は、幅広い投資家層の需要に応えるスキームとなったことが成功の要因だと言えます。特に日本の投資家の皆さんからは高い関心を集めました。さらに、弊行は、ヴィクトリアが有する無形資産（動産）を評価したクレジット・ファシリティや店舗のセール・リースバック取引でも大きな役割を果たしました」と述べています。また、「現在、投資家はリスクを考慮に入れながらも、より高い利回りを求めています。ハイイールド商品は、従来のマーケットにおけるクレジットスプレッドでは期待できなかった高い利回りを提供することで、投資家のこうした需要に応えた商品だと言えるでしょう」とコメントしています。

#####

ドイツ銀行グループは、日本において1,250名以上の従業員を擁し、ドイツ証券会社東京支店、ドイツ銀行在日支店、投資顧問子会社等を通じ、企業金融、投資銀行業務、プライベートバンキング、投資顧問などの広範なサービスを提供しております。ユーロ圏で主導的な立場にあり、資産規模において世界最大の銀行です。同グループはユーロマネー誌より1999年度資金調達力第1位に選ばれており、同誌の2000年1月の「Poll of Polls」でも総合力第1位と高い評価を得ています。

<この件に関するお問い合わせ先>

広報部

安立 聖子

電話: (03) 5156-7705